

東北調査 2019

概要

日時：2019年11月21日（日）～23日（火）

参加者：

東北大学2名，信州大学2名，熊本大学9名

概要：

令和元年11月17日（日）JR一ノ関駅にて調査団集合。気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館までレンタカーにて移動。伝承館を見学。陸路，陸前高田市へ移動し，いわて TSUNAMI メモリアルの夜景を視察。

18日（月）レンタカーにて3.11 桜ラインとハナミズキのみちを見学後，定点観測を行っている気仙成田山金剛寺を見学後，いわて TSUNAMI メモリアルを見学。陸路南三陸町に移動し，ホテル観洋にて語り部の講和を聞いたのち，陸路東松島市を訪れ，JR野蒜駅，東松島市震災復興メモリアルパーク，東松島市まちなか震災アーカイブなどを見学。

19日（火）東北大学災害科学国際研究所にて研究会を行い，東北大学附属図書館の震災アーカイブを見学。以後，本隊と別れ，かわまちてらす関上，震災遺構仙台市立荒浜小学校，荒浜海岸，せんだい3.11メモリアル交流館を見学。

感想・気づき

「利活用を踏まえた震災アーカイブの自律的運用モデルに関する研究」と題し，情報収集，研究討議を行った。伝承館や語り部の方々のお話を聞き，震災から得た教訓や各自の学びを，後世に伝えていくことの難しさ，特にアーカイブとして，いかに主体的に「語る」ことを記録や体験と一緒に保存・活用していくのかなど，学ぶことが多かった。その他，「メモリアル，伝承，教訓という言葉の違和感」「記憶の継承に対する“意識”の違い」「陸前高田中心市街地の整備のスピード“早いとも遅いとも言えない”」「定点観測：研究者，アーカイブとして持つ意味」「語り部，の可能性と限界，次の世

代に語り継ぐ」「省庁を跨ぐ，復興の在り方@野蒜」などの気づきがあった。



いわて TSUNAMI メモリアル展示



東北大学での研究会



震災遺構荒浜小学校にてガイドの説明

※東北大学災害科学国際研究所リリースを活用した共同研究助成を使用